

球磨教育事務所の分析結果と今後の取組

1、成果及び課題

(1) 成果

○教科の調査の結果から

- ・小学校国語及び算数では、全国の結果を100としたときの割合において、県平均との差が令和3年度から年々縮まってきている。
- ・小学校国語における「書くこと」については、全国及び県平均を上回った。

○質問紙調査の結果から

- ・学校質問紙において、参考指標1「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定率は、小・中学校ともに全国及び県平均を上回った。
- ・児童生徒質問紙において、参考指標2「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定率は、小学校が全国及び県平均を大きく上回った。中学校は、全国平均を下回ったものの県平均は上回った。

(2) 課題

○教科の調査の結果から

- ・小・中学校ともに、全教科で全国及び県平均を下回った。
- ・中学校については、全教科の全領域・全観点で全国及び県平均を下回った。また、数学及び英語は全国平均との差が大きい。

○質問紙調査の結果から

- ・「誰一人取り残さない学びの保障」について、児童生徒質問紙における「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」では、「当てはまる」の割合について、小学校は全国及び県平均を下回った。中学校は、県平均を上回ったものの全国平均は下回った。
- ・児童生徒質問紙において、参考指標1「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定率が、小学校は全国及び県平均を下回った。中学校は、県平均を上回ったものの全国平均は下回った。学校質問紙における結果とは大きく異なり、教師と児童生徒の意識に違いが見られる。

球磨教育事務所の分析結果と今後の取組

2、今後の重点取組

- 熊本県教育委員会が示した3つの参考指標に、球磨教育事務所において独自の「+1」を設定

【+1】令和5年度（2023年度）熊本県学力・学習状況調査の教科に関する調査で、全学年・全教科の管内平均が県平均を上回る。

- 球磨教育事務所指導主事による「学力向上を目指した支援訪問」を実施
 - ・球磨教育事務所指導主事が管内すべての中学校・義務教育学校（後期課程）を訪問する。
 - ・学校の支援要望を担当者から直接聞き取り、令和5年度（2023年度）熊本県学力・学習状況調査に向けたPDCAサイクルを確認し、確実な実践につなげる。
- 球磨教育事務所主催「わくわくスタディミーティング事業」を実施
 - ・ロールモデルとなる授業を公開し、管内の授業改善の促進を図る。
 - ・9月に小学校外国語、10月に小学校算数、11月に中学校国語を実施する。
- 球磨教育事務所主催「スキルアップイングリッシュセミナー」を実施
 - ・担当指導主事が管内すべての中学校・義務教育学校（後期課程）英語教員の授業参観・研究協議を実施し、英語教員の指導力向上及び授業改善を図るとともに、管内生徒の英語の学力向上を図る。
- 球磨教育事務所ホームページで各学校の学力向上に向けた取組を紹介
 - ・管内すべての学校の学力向上に向けた取組を共有することで、各学校の取組のさらなる充実を図る。